

シンポジウムの記録



あとがき

独立行政法人産業技術総合研究所と公益財団法人佐賀県地域産業支援センター九州シンクロトロン光研究センターは、「先端産業技術と量子ビームが拓く豊かな未来」をテーマとして、2013年7月31日に鳥栖市のサンメッセ鳥栖で合同シンポジウムを開催しました。本報告書はその内容をまとめたものです。このシンポジウムでは、持続可能な社会を実現し将来世代への可能性を拓けるイノベーションの創出と産業応用への期待を見据えて、両研究機関が得意とする分野での活動を報告し討議を行いました。すなわち、産業技術総合研究所における省エネルギー、新エネルギー、低環境負荷等を実現する太陽光発電やメタンハイドレート資源の活用とそれに必要な材料の創出及び計測技術の開発、そして九州シンクロトロン光研究センターにおける放射光を用いた省エネルギー、低環境負荷に資する物質・材料の評価や作物の突然変異育種、及び放射光との相補的或いは補完的利用が始まりつつあるX線レーザー光(SACLA)や炭素イオンビーム(SAGA-HIMAT)を用いたがん治療について講演があり、相互に理解を深めるとともに先端産業技術と量子ビームの融合による社会貢献への可能性を探ることが出来ました。

今回のシンポジウムは、九州シンクロトロン光研究センターの第7回研究成果報告会、文部科学省先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業、及び科学技術振興機構先端的低炭素化技術開発事業(ALCA)の一環として行いました。シンポジウム当日は、猛暑の中を121名のご参加をいただき、両機関の概況報告、特別講演、招待講演、一般講演など16件の口頭発表と39件のポスター発表が行われ盛況でした。また、発表終了後に開かれた研究交流会にも多数参加をいただき交流を深めることができました。今回のシンポジウムへの参加者、講演者、および関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

産業技術総合研究所と九州シンクロトロン光研究センターは同じ鳥栖市に位置し車で約10分の近距離にあり、各々の業務内容も相補的関連性を有しています。勿論これまで両機関は一般公開の同日開催を行ったり、様々なチャネルを通して交流の積み重ねを行ってまいりましたが、合同シンポジウムの開催は今回が初めてです。今後とも、このような研究交流を持続的にを行い、先端産業と地域の発展に貢献すべく努力する所存です。今後とも皆様方の益々のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

九州シンクロトロン光研究センター
副所長 平井 康晴